

名古屋大学

前期日程

科目

世界史

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	文 200点, 情報(社会) 400点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

形式・分量はともに昨年並みであった。資料を用いる問題の出題も、例年通りである。問題の内容は確実に難化した。

〈特記事項・トピックス〉

アジア史については、今年は中国史が2題出題された。

〈合格への学習対策〉

単なる歴史用語の暗記だけでは対処できない。
教科書を中心に偏りのない学習をこころがけよう。
また、問題文の解釈が正しくできるように、普段から読解力をつけておくことが大切である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述 短文論述	中国古代史(殷周～秦漢)	中国諸王朝の統治制度について	難
II	記述	ヨーロッパ中世史	カロリング=ルネサンスと12世紀ルネサンス	易
III	記述 短文論述	中国諸王朝の首都の変遷	首都の移動における経済的・軍事的要因	やや難
IV	長文論述 (350字以内)	16世紀以降の新大陸への移民について	旧大陸から新大陸への人口移動	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。